

都道府県・指定都市番号	64	都道府県・指定都市名	広島市	研究課題番号・校種名	1 中学校
				教科名	技術・家庭（家庭分野）
研究課題	<p><b>学習指導要領の趣旨を実現するための学習・指導方法及び評価方法の工夫改善に関する実践研究</b></p> <p>○ 各内容において育成を目指す資質・能力を明確にし、これからの生活を展望して課題を解決する力やより良い生活の実現に向けて、生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を育成するための指導計画，指導方法及び学習評価の研究。</p> <p>(エ)内容「B衣食住の生活」における住生活の指導計画，(6)及び(7)衣食住の生活についての課題と実践に関する指導方法と学習評価の研究</p>				
ふりがな 学校名（生徒数）	<p>ひろしましりつせのがわちゅうがっこう 広島市立瀬野川中学校（430名）</p>				
所在地（電話番号）	<p>〒739-0321 広島県広島市安芸区中野四丁目24番1号 電話(082)893-1265</p>				
研究内容等掲載ウェブサイト URL	<p><a href="http://cms.edu.city.hiroshima.jp/weblog/index.php?id=j1070&amp;type=5">http://cms.edu.city.hiroshima.jp/weblog/index.php?id=j1070&amp;type=5</a></p>				
研究のキーワード	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「住生活」における小・中学校5年間で育む資質・能力を明確にした題材の指導計画</li> <li>・問題解決的な学習の過程に沿った学習方法</li> <li>・「思考・判断・表現」の観点における学習評価</li> </ul>				
研究結果のポイント	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 事前アンケートにより、住生活における問題を把握し、指導に生かすとともに、事後のアンケートにより生徒の変容を見取ることができた。</li> <li>○ 「住生活」における小・中学校5年間で育む資質・能力を明確にした。</li> <li>○ 小学校で学習する各内容・各指導項目との系統性や他教科等との関連を明確にした中学校3学年間の全体指導計画を作成した。</li> <li>○ 新学習指導要領解説技術・家庭編に示されている問題解決的な学習の過程に沿った学習を行い、身近な生活の課題を主体的に捉え、課題解決できるよう工夫した。</li> <li>○ 生活の営みに係る見方・考え方を働かせた課題設定ができるような学習指導の工夫をした。</li> <li>○ 「思考・判断・表現」の観点における学習評価を工夫した。</li> <li>○ 住生活における生活を工夫し創造する資質・能力を評価するためのペーパーテストを作成した。</li> </ul>				

1 研究主題等

(1) 研究主題

生活を工夫し創造する資質・能力を育むための小中5年間の系統的な指導と評価に関する研究  
～「住生活」の指導における「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善をとおして～

(2) 研究主題設定の理由

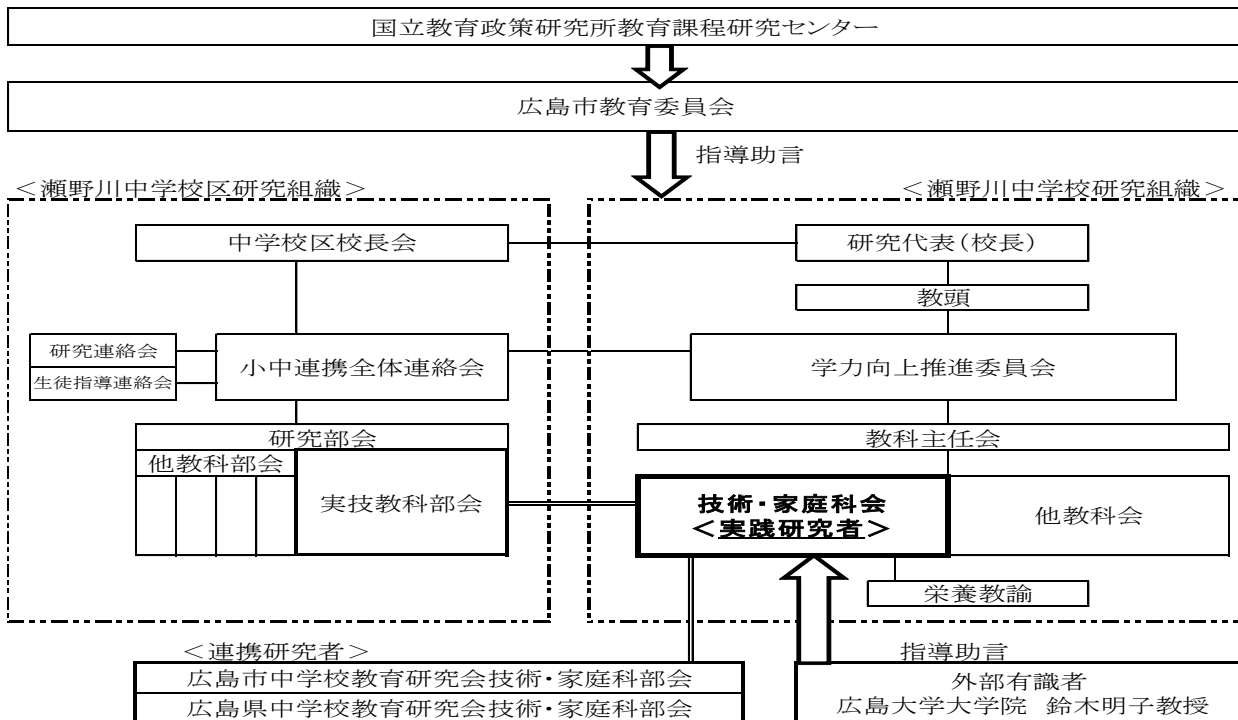
平成29年告示中学校学習指導要領では、生活を工夫し創造する資質・能力を育むためには、生徒が家族・家庭や地域における生活を見つめ、問題を見いだして課題を設定し、学んだ知識及び技能を活用して、課題を解決する「学びの過程」を重視し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた指導の必要性が示された。また、内容「B衣食住の生活」の「(6)住居の機能と安全な住まい

方」において「自然災害に備えた住空間の整え方」についても扱うことが明記された。

平成 30 年 7 月に起きた西日本豪雨災害では本中学校区も被災し、生徒は土砂災害の状態や救助の様子等も目の当たりにした。このことから、生徒が身近な自分の体験から「災害に備えた住まい方」について主体的に考え、家族や地域とともに、工夫や実践ができる力を育ませたいと考える。

そこで、本研究では新学習指導要領の方向性を踏まえ、3年間で育む資質・能力を明確にしつつ、5年間を見通した指導計画を工夫する。その際、小中の系統性や他教科等との関連についても検討する。また、「学習過程」を重視し、「主体的・対話的で深い学び」を実現し、生活を工夫し創造する資質・能力を育みたいと考え主題を設定した。

(3) 研究体制



(4) 2年間の主な取組

令和元年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 中学校1年生を対象に、「住生活」に関するアンケートを実施し分析</li> <li>・ 中学校3年間を見通した指導計画の作成</li> <li>・ 育む資質・能力の明確化と「生活の課題と実践」の効果的な位置付けの検討</li> <li>・ 小中連携研究部会で5年間を見通した指導計画の検討</li> <li>・ 学習評価の検討</li> <li>・ 授業実践 中学校1年生 内容「B衣食住の生活」(6)アイ 題材「安全な住まい方について考えよう」</li> <li>・ 研究授業の実践：モデル家族の自然災害に備えるための行動マニュアルから、各家庭の自然災害に備えるための行動マニュアルの工夫を考える</li> <li>・ 資質・能力を評価する質問紙の検討</li> <li>・ 「生活の課題と実践」の課題設定の検討</li> <li>・ 1年次の研究の成果と課題整理</li> <li>・ 事後アンケートの実施と分析</li> <li>・ 研究報告作成</li> <li>・ 研究協議会での研究成果と課題の報告</li> <li>・ 次年度の研究計画立案</li> </ul>
-------	--

令和2年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 中学校1年生を対象に、小学校での学習の実態を把握するためのアンケートを実施</li> <li>・ 小中の系統性を踏まえた「住生活」の小中5年間の題材配列表を作成</li> <li>・ 小中の系統性を踏まえた中学校3年間の指導計画の再考</li> <li>・ 問題解決的な学習における「学習過程」と指導の工夫の検討</li> <li>・ 学習評価の検討</li> <li>・ 「生活の課題と実践」の課題設定の検討</li> <li>・ 生活を工夫し創造する資質・能力を評価するために効果的なペーパーテストやワークシート等の検討</li> <li>・ 授業実践 中学校1年生 内容「B衣食住の生活」(6)アイ 題材「安全な住まい方について考えよう」</li> <li>・ 資質・能力を評価する質問紙による検証</li> <li>・ 2年次の研究の成果と課題整理</li> <li>・ 研究協議会での研究成果と課題の発信</li> </ul>
-------	---

## 2 研究内容及び具体的な研究活動

### (1) 研究内容

- ① 育む資質・能力の明確化と小・中学校5年間の学習内容や他教科等との系統性を踏まえた中学校3年間を見通した指導計画の工夫
  - ・ 住生活における小・中学校5年間の題材配列の工夫について具体的に示す。
  - ・ 「生活の課題と実践」の効果的な位置付けについて再検討する。
- ② 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善
  - ・ 問題解決的な学習において、生活の営みに係る見方・考え方を働かせた課題設定ができるような学習指導を工夫する。
- ③ 生活を工夫し創造する資質・能力を育む評価の工夫
  - ・ 「思考・判断・表現」の観点における学習評価の実例を示す。
  - ・ 生活を工夫し創造する資質・能力の定着度を図るために効果的なペーパーテストを作成し実施する。

### (2) 具体的な研究活動

- ① 育む資質・能力の明確化と小・中学校5年間の学習内容や他教科等との系統性を踏まえた中学校3年間を見通した指導計画の工夫
  - ア 「住生活」における小・中学校5年間の指導内容の確認表を作成し、育む資質・能力や学習内容の系統性を明確にした。また、住まいが家庭生活の営みの基盤であると捉え、3学年間の初めに配列し、その後の学習において住生活の学習内容を踏まえながら学習する工夫をした。
  - イ 小学校家庭科で学習する各内容・各指導項目との系統性や他教科等との関連が分かる中学校3年間の全体指導計画を作成した。小学校での学習を振り返りながら学習させたり、他教科等で学習したことと家庭科の学習のつながりを意識させたりした。
  - ウ 「生活の課題と実践」を家庭分野のすべての学習を終えて、改めて自分の住まいの安全を見直し、問題を見いだして課題を設定し解決方法を考えるよう、第三学年の最後に位置

付けた。

② 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善

ア 生活の中にある問題の共有化を図るために家族構成や住んでいる家、住んでいる地域を詳細に示したモデル家族を設定した。その上で、住生活に関する家族・家庭や地域における様々な問題をモデル家族の一員として「健康・快適・安全」の視点で捉え、考察できるような課題設定ができるよう学習指導の工夫をした。

イ 設定した課題を主体的に解決できるよう、新学習指導要領解説技術・家庭編に示されている問題解決的な学習の過程に沿って学習を行った。

③ 生活を工夫し創造する資質・能力を育む評価の工夫

ア 題材「安全で快適な住まいを作ろう」では、習得した知識及び技能を活用して思考力・判断力・表現力等を育成するため、モデル家族の安全を考えた自然災害に備える実践行動マニュアルを作成する「パフォーマンス課題」に取り組んだ。作成した実践行動マニュアルを発表する場面と実践行動マニュアルを修正する場面で「思考・判断・表現」の観点における学習評価について、「おおむね満足できる」評価と「十分に満足できる」評価を明確にした。

イ 教育研究会と連携して作成した、住生活における生活を工夫し創造する資質・能力の定着度を図るためのペーパーテストを実施し、検証した。

※ 新型コロナウイルス感染拡大の影響により、ペーパーテストについて教育研究会で実施検証を十分に深めることができなかった。また、本来は4人グループでマニュアルを作成したり話し合ったりする予定だったが、二人組での活動となった。十分な活動ができるか不安があったが実践行動マニュアルのバリエーションが増えたという点ではよかった。

### 3 研究の成果と課題（○成果●課題）

- 育む資質・能力の明確化と小・中学校5年間の学習内容や他教科等との系統性を踏まえた中学校3年間を見通した全体的な指導計画の工夫したことによって、小学校の指導内容の理解が深まり、中学校の指導に生かすことができた。
- 生活の営みに係る見方・考え方を働かせた課題設定ができるような学習指導を工夫したり、学習指導要領解説技術・家庭編に示されている問題解決的な学習の過程に沿って主体的に課題を解決できるようにしたりすることによって、学びを深めることができた。
- 「思考・判断・表現」の観点における学習評価を工夫したことは、生活を工夫し創造する資質・能力の育成につながった。
- 対話的な学習の場面での見取りの工夫について、さらに評価場面を明確にし、より確実な見取りとなるよう改善を図る必要がある。

### 4 今後の取組

- ・ 該当学年が3年生に進級した際、生活の課題と実践の位置付けが適切であったか実際を見取り、検証していく。
- ・ 住生活における生活を工夫し創造する資質・能力の定着度を図るためのペーパーテストについて、教育研究会等で内容や検証方法を継続して研究する。